

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第 38 週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 520 人（定点あたり 17.8）で、前週比 86%と減少した。

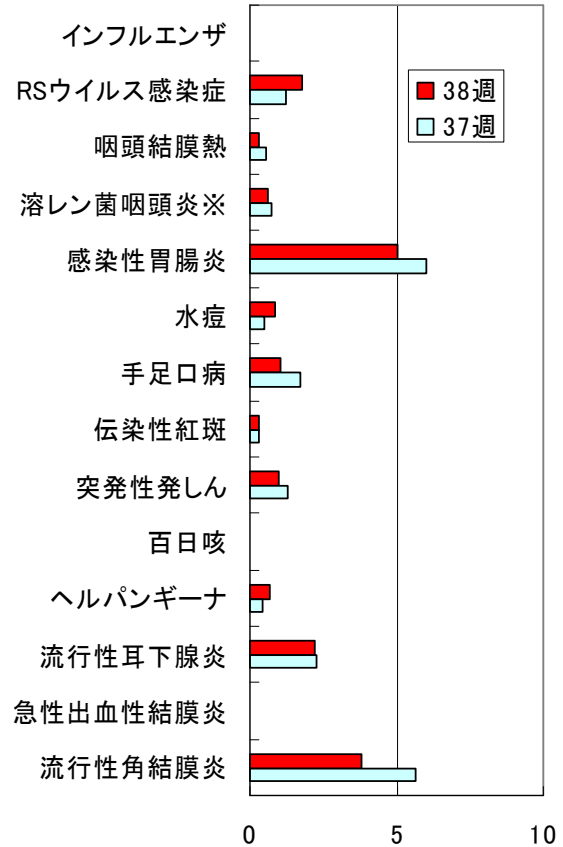
前週に比べ多かった主な疾患はRSウイルス感染症と水痘であった。

RSウイルス感染症の報告数は 63 人（1.8）で前週比 140%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（0.54）と比較すると約 3.2 倍と多い。日向（7.3）、延岡（4.8）保健所からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 3 歳で全体の約 9 割を占めた。全て 4 歳以下の報告であった。

水痘の報告数は 30 人（0.83）で前週比 176%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（0.98）と比較すると約 8 割である。宮崎市（1.7）、日向（1.5）保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 8 割を占めた。全て 5 歳以下の報告であった。

無菌性髄膜炎 1 人が延岡保健所から報告された。患者は 1 ヶ月の男児。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
流行性耳下腺炎	6	2.2	延岡(7.3)	3歳~5歳で全体の6割を占めた。

※流行性角結膜炎は、平成 22 年 9 月 10 日に流行警報開始基準値 8 を上回ったので流行警報を発令しましたが、第 38 週において終息基準値 4 を下回った（3.8）ので、警報を解除します。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 4 例が宮崎市（2 例）、都城・小林（各 1 例）保健所から報告された。
 《宮崎市保健所》・60 歳代の男性で疑似症患者。腰・下肢痛がみられた。
 ・60 歳代の男性で肺結核。咳、痰、食欲不振、体重減少がみられた。
 《都城保健所》・10 歳代の男性で無症状病原体保有者。
 《小林保健所》・80 歳代の男性で肺結核。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が宮崎市保健所から報告された。80 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は不明（VT 産生）。
- 4 類感染症： レプトスピラ症 1 例が宮崎市保健所から報告された。70 歳代の男性で発熱、筋肉痛、結膜充血がみられた。
- 5 類感染症： 破傷風 1 例が宮崎市保健所から報告された。60 歳代の男性で筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙攣、易興奮性、反弓緊張がみられた。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 22 年 9 月 15 日～9 月 27 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日
病原血清型大腸菌(O111:H21)	0～4	男	9.4	下痢、腹痛、発熱	便	9.15
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)		女	9.8		便	9.16
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0～4	女	9.8		便	9.16
<i>Salmonella</i> Corvallis(O8:z4,z23:-)		女	9.14		便	9.22
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	10代後半	女	9.14		便	9.22
腸管出血性大腸菌(O121:H19 VT2)	0～4	女	9.14	下痢、血便、発熱	便	9.19
<i>Campylobacter fetus</i>	50代後半	女	9.15	敗血症、発熱(38.9℃)	血液	9.22

○今年初めて、*Campylobacter fetus* が同定された。本菌は、流産を起こしたり、新生児の敗血症や髄膜炎を起こすことが報告されているが、今回の患者は、敗血症を呈した成人女性であった。なお、昨年(2009年)には4株が検出されたが患者は全例、子宮内感染が原因とされる新生児や成人女性で、発熱などの症状が認められた。

○今年、当所で同定した腸管出血性大腸菌33株のうち半数はO157であるが、今回O121を検出した。本血清型菌は、そのほとんどがVT2を産生し、重症化しやすい血清型であるが、本県での検出数は少なく、昨年(2009年)には検出されていない。

□ ウイルス（平成 22 年 9 月 15 日～9 月 27 日までに分離同定）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
デングウイルス2型	20	女	8.20	デング熱疑い、40.6℃、筋肉痛、胃腸炎	血清	9.17
エコーウイルス25型	28D	男	8.7	髄膜炎、38.5℃	髄液	9.21
エコーウイルス25型	4M	男	8.9	無菌性髄膜炎、38.8℃	便	9.21
エコーウイルス25型	5	男	8.28	無菌性髄膜炎、38.2℃	咽頭ぬぐい液、髄液	9.20

○フィリピンに渡航歴のある人の血清からデングウイルス2型の遺伝子が検出され、デングウイルスが分離された。現在、日本国内にはデングウイルスは常在しないが、デングウイルスが常在する熱帯・亜熱帯地域でデングウイルスに感染し、帰国後あるいは来日後発症する輸入例が毎年相当数存在する。

○髄膜炎の乳幼児からエコーウイルス25型が検出された。

[デング熱・デング出血熱]

デングウイルスには1～4型の4つの型があり、1つの地域において複数の型のデングウイルスが同時期に存在していることが多い。1つの型のウイルスに感染した場合、同じ型のデングウイルスには感染しないが、他の型のデングウイルスには感染し、発症する可能性がある。デングウイルスに感染した場合、不顕性感染が多いと推察されている。

デングウイルスはネッタイシマカやヒトスジシマカの刺咬により人→蚊→人で感染環が成立する。デングウイルス感染により、デング熱とデング出血熱という二つの異なる病態を示す。デング熱は、発熱・発疹・痛み（関節痛）が3主徴である急性熱性疾患で、致死率は低い。これに対して、デング出血熱は、発熱・出血傾向・循環障害を示し、適切な治療を実施しないとショック死する危険性が高い。

現在、ワクチンはなく、対症療法が中心である。蚊に刺されないようにするのが唯一の予防法である。

■ 全国第 37 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 9.8 で、前週比 97% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患は R S ウイルス感染症と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと咽頭結膜熱であった。

R S ウイルス感染症の報告数は 746 人 (0.25) で、前週比 132% と増加した。例年同時期の約 1.7 倍である。佐賀県・鹿児島県 (各 1.4)、宮崎県 (1.3)、福岡県 (0.9) からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 1,943 人 (0.65) で、前週比 108% と増加した。例年同時期の約 9 割である。鳥取県 (1.6)、福井県 (1.3)、山口県 (1.2) からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約半数を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 276 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 5 例、腸管出血性大腸菌感染症 147 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 4 例、デング熱 15 例、日本紅斑熱 5 例、マラリア 3 例、類鼻疽 1 例、レジオネラ症 12 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 13 例、ウイルス性肝炎 4 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 19 例、梅毒 11 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、風疹 1 例、麻疹 3 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第38週(09月20日～09月26日)

疾病名		第37週	第38週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	45	63	6	3	19	2		4		29	
	定点あたり	1.25	1.75	0.60	0.50	4.75	0.67	0.00	1.00	0.00	7.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	11	3	2	2	3					1
	定点あたり	0.56	0.31	0.30	0.33	0.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	26	21	6	2	3	3	1	1		3	2
	定点あたり	0.72	0.58	0.60	0.33	0.75	1.00	0.33	0.25	0.00	0.75	2.00
感染性胃腸炎	報告数	216	182	31	35	16	15	23	26	5	27	4
	定点あたり	6.00	5.06	3.10	5.83	4.00	5.00	7.67	6.50	5.00	6.75	4.00
水痘	報告数	17	30	17	3	4					6	
	定点あたり	0.47	0.83	1.70	0.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50	0.00
手足口病	報告数	61	38	11	3	14		1	4		2	3
	定点あたり	1.69	1.06	1.10	0.50	3.50	0.00	0.33	1.00	0.00	0.50	3.00
伝染性紅斑	報告数	11	11	3	6		1		1			
	定点あたり	0.31	0.31	0.30	1.00	0.00	0.33	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	47	36	14	2	5	1	3	3		6	2
	定点あたり	1.31	1.00	1.40	0.33	1.25	0.33	1.00	0.75	0.00	1.50	2.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	16	25	1	1	9	12	1			1	
	定点あたり	0.44	0.69	0.10	0.17	2.25	4.00	0.33	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	82	79	10	11	29	2	1	4		22	
	定点あたり	2.28	2.19	1.00	1.83	7.25	0.67	0.33	1.00	0.00	5.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	34	23	18	5							
	定点あたり	5.67	3.83	6.00	2.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第38週)

2類感染症	結核	155例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	46例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	デング熱	1例	日本紅斑熱	3例	マラリア	2例
	レジオネラ症	2例	レプトスピラ症	1例(1)		
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	4例(1)	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

RS ウイルス感染症に気をつけましょう。(9 月 20 日～9 月 26 日)

RS ウイルス感染症の報告が増えています。主に冬季に流行する急性呼吸器感染症ですが、今年は例年より早く流行し始めています。

4～5 日の潜伏期間後、鼻水、咳、38～39 度の発熱など風邪の症状が現れ、通常 1～2 週間で治ります。1 歳未満の乳児がかかりやすく、特に 6 ヶ月未満の小さなこどもは、急激に悪化し、重症化（気管支炎や肺炎）することもあります。痰が詰まったような咳やゼーゼーとのがが鳴るなどの症状がみられたら早めに医療機関を受診しましょう。

このウイルスは感染力が強く、免疫ができてにくいいため繰り返し感染しますが、何度もかかるうちに徐々に免疫ができて症状は軽くなります。2 歳以上になると鼻カゼ程度ですむこともあります。

患者さんの咳の飛沫を吸い込んだり、ウイルスが付着した手指や物を介して感染します。予防はかぜやインフルエンザと同様で、外出後の石けんによる手洗い、うがいを必ず行うようにしましょう。乳幼児の多い保育園では感染が急速に広がることもあるので、積極的に手洗いうがいを行いましょう。